

平成28年度 自己点検・自己評価表

弘前学院大学

1 理念・目的

点検・評価項目	評価の視点	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
(1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。	○理念・目的の明確化 ○実績や資源からみた理念・目的の適切性 ○個性化への対応	S Ⓐ B C	文学部 ○大学の理念・目的は学則で示されている。学部・学科の目的・目標は、ホームページ・大学案内・学生便覧等で明確に示している。目的・目標は適切に設定されており、妥当なものとする。	
			社会福祉学部 ○人材養成の目的その他の教育研究上の目的を学則に定めている。また、社会福祉学部で養成する人材像や教育研究上の目標についても定め、ホームページや大学案内、入試関係資料、実習指導の手引き等に掲載し、広報に努めている。	
			看護学部 ○教育理念、人材養成の目的、教育研究上の目的は学則に定めている。また、ホームページ、大学案内、学生便覧、看護学実習要項にも明示している。	
			大学全体 ○大学の理念・目的については、学則第1条に明示している。 ○学部・学科の目的・目標については、学則第3条に明示している。	○適切性や個性化への対応等については、定期的に点検し、必要に応じて修正等の措置を講ずる。
(2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。	○構成員に対する周知方法と有効性 ○社会への公表方法		文学部 ○学生便覧をとおして、学生、教職員など大学構成員に周知している。また、新入生に対しては入学時オリエンテーションや新入生リトリートで学生便覧を配布し、教育理念や目的について詳細に説明し周知を図っている。在学生に対しては、4月の在学生オリエンテーション時に学生便覧を活用して周知に努めている。また、社会に対しては、ホームページや出版物などにより広く公表している。	
			社会福祉学部 ○一号館玄関ホールに建学の精神（スクールモットー）「畏	○ホームページを工夫し、アクセス数を増やすため、インターネット等委員会と社会福祉学部

		S Ⓐ B C	<p>神愛人」を掲げ、教職員や学生に対して周知徹底を図っている。また、新入生に対しては入学時オリエンテーションや新入生リトリートで学生便覧を配布し、教育理念や目的について詳細に説明し周知を図っている。在学生に対しては、4月の在学生オリエンテーション時に学生便覧を活用して周知に努めている。</p> <p>○社会福祉実習及び精神保健福祉実習の手引きにも教育理念や人材像を記載し周知を図っている。さらに、この手引きを活用して、実習施設や関係機関との連絡協議会を期的に開催しており、外部への普及に努めている。</p>	<p>事務による掲載記事の掘り起こしを図る。</p> <p>○入試広報用の各種媒体に教育理念や目的を確実に盛り込んで、広く社会の認知を得られるようにする。また、保護者会等でも積極的にアピールし、口コミによる普及を図る。</p> <p>○社会福祉学部の発行する研究紀要や実習報告書等の刊行物に記載し、外部に公表する。</p> <p>○2017年度に発行予定の「障害をもつ学生支援ガイドブック」にも、建学の精神「畏神愛人」を記載する。</p>
			<p>看護学部</p> <p>○正面玄関入り口にスクールモットー「畏神愛人」が掲げられている。教職員および学生は毎日これに目を触れることで周知徹底を図っている。また、1年生はリトリートで建学の精神をはじめ、大学の歴史を講話で学び、在学生については学生便覧や看護学実習要項を配布し、履修ガイダンス、臨地実習ガイダンス時に教育理念や目標を伝え、周知徹底を図っている。</p> <p>○履修ガイダンスに学生便覧又は看護学実習要項を活用して、教育理念・教育目的を周知徹底している。また、正面玄関入り口のスクールモットー「畏神愛人」は常に外来者の目に触れ、社会に公表している。</p>	<p>○ホームページのアクセス数を増やし、注目度を上げることが課題である。入試広報のための各種媒体作成時に理念、目的を盛り込んで広く社会の認知を得られるようにしたい。また、学祭、オープンキャンパス、進学説明会の機会に、社会、生徒の保護者、高校教員に対しても広くアピールしたい。</p> <p>○毎年リカレント教育を開催し、地域医療施設等にポスターや冊子等を配布しているので、その際に理念や目的を掲載し、地域社会に広く普及を図りたい。また、学部で発行する看護紀要にも掲載し、広報の機会を増やしたい。</p>
			<p>大学全体</p> <p>○理念・目的については、大学案内、募集要項、学生便覧、大学院要覧、ホームページ等で周知を図っている。また、学則については、学内イントラネット、学生便覧、大学院要覧へ全文を掲載している。</p> <p>○学生に対しては、年度初めのオリエンテーションや新入生リトリート等で周知を図っている。</p> <p>○一号館及び看護学部玄関ホールに建学の精神（スクールモットー）「畏神愛人」を掲げ、教職員や学生に対して周知徹底を図っている。</p>	<p>○ホームページへの学則の掲載については、次年度中には実施する方向で検討している。</p>
(3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定			<p>文学部</p> <p>○定期的に検証する作業は実施していないが、概ね4年に一度のカリキュラム改定の際に、全面的な検証を行う慣例</p>	<p>○年度末などに検証することを年間スケジュールに取り入れるなど、専門的な検証組織の必要性が議論されている。</p>

期的に検証を行っているか。		S	である。	
		Ⓐ		
		B	社会福祉学部 ○入学時に行われる新入生リトリートで詳細に説明するとともに、参加学生へのアンケートを実施し、学修成果の一部として教育理念の周知状況や適切性を検証している。 ○より適切な検証を行うため、検証委員会の設置について学務委員会で検討している。	○これまでの検証では不十分なことから、自己点検委員会ばかりでなく、宗教委員会を巻き込んで検証委員会の設置に取り組む。そのためのプロジェクトを立ち上げる。 ○検証結果について教授会に報告し、改善点を共有すると共に全学的対応を取れるよう体制の整備を図る。
		C	看護学部 ○学生にとっても教職員にとっても、新学期が最も本学の教育理念並びに目的を再認識する時期のため、リトリート(新入生研修)で説明すると共に、参加学生へのアンケートを回収して、その学習成果の一部として教育理念の周知具合を検証してきた。	○これまでの検証では不十分なことから、自己点検・自己評価委員会だけでなく、学務委員会や宗教委員会とも合同で検証し、この検証結果を教授会に報告し、改善点を共有すると共に全学的対応を取れるよう体制の整備を図りたい。
			大学全体 ○明確化を図ったばかりなので、現時点で検証のための時間や機会を特別に設けていない。	○今後は自己点検・自己評価委員会で意見を聴取し、必要に応じて学務委員会、教授会、大学協議会等で検証を行う。

2 教育研究組織

点検・評価項目	評価の視点	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
(1)大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。	○教育研究組織の編制原理 ○理念・目的との適合性 ○学術の進展や社会の要請との適合性	S Ⓐ B C	大学全体 ○社会福祉学部では、本学の理念「畏神愛人」のもと、人間の諸問題に立ち向かうことのできる福祉実践者の育成や社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験の合格率向上に向けた対策等が可能な組織編成に努めている。 今年度からの新カリキュラムでは、社会福祉以外の分野への学習意欲に応えられるよう科目を配置し、民間企業就職・公務員といった進路指導もしやすくなった。この検証もしていきたい。 専任教員が入会している学会の研究大会会場や開催当番校を引き受ける等、学術の進展や社会の要請にも応えてきており、今年度は東北社会学会研究大会等の開催に協力した。 ○看護学部では、本学の理念である「畏神愛人」のもと、高	○社会福祉学部では教職員、学生、それら相互の信頼関係をベースに、授業の工夫・改善・充実に取り組み、向上心ある学生の育成強化を図りたい。また、来年6月にキリスト教社会福祉学会大会が本学を会場に開催される。開催準備を学部教員が協力して取組み、成功させる。 ○看護学部では、学部一丸となって、向上心あふれる学生を育成すべく授業を展開する必要がある。学生の学力向上のために、学内授業・臨地実習、各科目の連携により総合的に学習できるシステムの構築に努めている。また、看護師・保健師の国家試験の合格率100%を目指し、受験対策講座の充実を図る必要がある。 ○地域総合文化研究所は、組織の見直しを図っ

			<p>い感性と豊かな人間性を備え、ひとを慈しみ、知識・技術・態度をも兼ね備えた看護師を育成できる組織編成に努めている。また、看護師・保健師の国家試験の合格率向上を目指し、前期より模擬試験を実施している。さらに、看護におけるアセスメント能力を修得させるために臨地実習に常に教員を配置するとともに、リカレント教育を継続して開催し、大学・実習施設との連携を密にすることで学生への指導力の向上を図っている。</p> <p>○地域の生活・文化を総合的に研究するために、地域総合文化研究所を設置しており、3学部の連携・協力のもとで活発に活動している。</p> <p>○大学全体として、本学の理念・目的の実現が可能な教育研究組織を編成するよう努めている。また、学術の進展や社会の要請等を考慮して、適切に対応するよう努めている。</p>	<p>ており、年に3回以上行っている講演会・研究会のうち1回を大学の外で開催し、地域との連携をより一層強化していく。</p>
(2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。		<p>S Ⓐ B C</p>	<p>大学全体</p> <p>○大学協議会、教授会、学科会議等で、必要に応じて検証している。</p>	<p>○各種委員会については、活動状況の把握に努め、在り方や必要性等について検討する必要がある。</p>

3 教員・教員組織

点検・評価項目	評価の視点(※修士課程)	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
(1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。	<p>○教員に求める能力・資質等の明確化</p> <p>○教員構成の明確化</p> <p>○教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化</p>	<p>S Ⓐ B C</p>	<p>文学部</p> <p>○学則等によって明確に定められている。</p> <p>○教員公募の際、キリスト者または理解者であること、という文言を入れている。教授会では折に触れ学部長から教員の連携体制、責任の所在と範囲などについて明言がある。</p>	
			<p>社会福祉学部</p> <p>○学長が学部長を兼務し学部運営に取り組んでいる。</p> <p>○教授会、学科会議などを通して、連携体制の確認や責任の所在を明らかにしている。</p> <p>○各種委員会等が適切に運営されている。</p>	<p>○学部・学科の組織的なまとまり、統制力を今以上に図る。</p> <p>○連携体制の確認や責任の所在の明確化については、今後も継続して取り組んでいく。</p>
			<p>看護学部</p>	<p>○年度初めに学部長より教授会、学科会議にお</p>

			<p>○教員の能力・資質は本学教員の採用・昇格選考規程に明示され、組織的連携は本学の組織運営規程に明確に定められている。</p> <p>○学部長を中心として学部運営に取り組んだ。</p> <p>○教授会・学科会議などを通して、連携体制の確認や、責任の所在を明らかにしてきた。</p> <p>○教員組織の編成は毎年検証して改善を図っている。</p> <p>○看護学部の各種委員会等が適切に運営された。</p>	<p>いて、学部の教育方針と教員の教育指針について打ち出されている。教育・研究の責任の所在は各領域、研究テーマにより明らかであるが、組織的連携体制の責任の所在については、今後さらに明確にしていきたい。</p> <p>○教員組織の編成については毎年検証して改善を図っていく。</p>
			<p>大学全体</p> <p>○大学学則(第8条)、大学院学則(第36条)、教員採用及び昇格の選考に関する規程、組織運営規程等で基本的要件を示している。</p> <p>○大学設置基準で定められている教員構成や教員配置を遵守するよう努めている。</p>	
<p>(2)学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。</p>	<p>○編制方針に沿った教員組織の整備</p> <p>○授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備</p> <p>※研究科担当教員の資格の明確化と適正配置</p>	<p>S A Ⓢ C</p>	<p>文学部</p> <p>○教員組織は大学設置基準に基づき、適正に配置しているが、欠員補充については速やかにできない場合もある。</p> <p>○年齢は、70代2名、60代3名、50代7名、40代2名、30代1名、20代1名と、50代を中心とした年齢構成になっている。</p> <p>○適合性については、教育課程編成時に判断されている。</p>	<p>○科目と担当教員の適合性については、各学科の判断に任されているので、学部単位での検証機構を立ち上げる。</p>
			<p>社会福祉学部</p> <p>○大学設置基準により、適正に教員を配置している。年齢は、60代4名、50代6名、40代3名、30代1名と、50代を中心とした年齢構成になっている。</p> <p>○基本的に非常勤教員の配置は少なくし、専任教員が隣接する社会福祉専門科目も担当するなど工夫している。</p>	<p>○社会福祉専門科目の専任教員が少なく、特に高齢者分野、障害者分野の専任教員の配置が必要である。</p> <p>○授業の担当時間数の偏りを可能な限り調整する。</p>
			<p>看護学部</p> <p>○教員組織は大学設置基準に基づき、適正に教員を配置している。</p> <p>○授業担当の非常勤講師は50名、臨地実習担当の非常勤助手は6名である。</p> <p>○教員の年齢構成は、30代3名、40代5名、50代3名、60代5名、70代1名と、40代～60代が76.5%を占める。</p>	<p>○看護実践科目の専任担当教員を増員する予定である。</p> <p>○科目担当、臨地実習の時間数に応じて教員の増員を図り、教育の充実を図る予定である。</p>

			<p>大学全体</p> <p>○教育課程の編成や担当教員の配置については、学務委員会、学科会議、教授会等で十分に協議し、学部理念・目的を踏まえた適切な編成・配置になるよう努めている。</p> <p>○学生の多様なニーズを踏まえた幅広い教育課程に対応するため、非常勤講師の有効な活用に努めている。</p> <p>※研究科においても、研究科委員会において十分に協議し、適切な編成・配置になるよう努めている。</p>	
<p>(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。</p>	<p>○教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化</p> <p>○規程等に従った適切な教員人事</p>	<p>S</p> <p>A</p> <p>Ⓑ</p> <p>C</p>	<p>文学部</p> <p>○募集・採用・昇格については明確な規則があり、それに従って行なわれている。昇格については適切に行なわれている。</p>	
			<p>社会福祉学部</p> <p>○学則や採用・昇格に関する規程の基準に照らし、小委員会等を設置し審査選考している。</p>	<p>○教授、准教授、講師等の教員構成のバランス調整が必要である。</p> <p>○採用や昇格について、学長への要請を積極的に行う。</p> <p>○公募による教員募集も検討し、優秀な人材確保に努める。</p>
			<p>看護学部</p> <p>○教員の募集・採用・昇格等は大学の規定に明示され、規定に基づいて採用、昇格している。</p> <p>○教員採用・昇格に関しては、必要時に審査委員会を設置し、選考規定に基づいて資格審査を行って決定している。</p> <p>○授業科目の担当数の調整を図る必要があり、担当科目数が増える看護実践科目の担当者数を傾斜配分している。</p>	<p>○看護実践科目の担当者を増員する必要がある。</p>
			<p>大学全体</p> <p>○弘前学院大学教員採用及び昇格の選考に関する規程に基づいて、計画的に採用・昇格が行われるよう努めている。</p>	
<p>(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。</p>	<p>○教員の教育研究活動等の評価の実施</p> <p>○ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性</p>		<p>文学部</p> <p>○FD委員会が学生による授業評価を実施しており、授業の工夫・改善が図られるなどの成果が上がっているが、教員の評価システムとしては不十分である。</p>	<p>○教員の評価については、授業評価以外の方法や手段についても検討する必要がある。</p> <p>○教員の教育研究活動を総合的に評価する機構を設立する。</p>
			<p>社会福祉学部</p> <p>○自主的な学習時間確保に向けた取り組み状況と、それに関連した図書館の位置づけの改善のために「学士力向上のための図書館の活用ガイドブック」を作成した。</p>	<p>○今後は、ガイドブックを基礎演習、社会科学研究方法などを活用しながらモニタリングし、修正・加筆し、より精度の高いものにする。</p> <p>○学部主催のFD研修会を開催し、FD活動を</p>

		<p>S Ⓐ B C</p>	<p>○授業評価アンケートを活用して、教員の教育研究活動等の評価の実施している。また、学生からの授業に関する要望を匿名化したうえで配布し授業改善に役立てている。 ○FD研修会を学部単位で開催していないが、全学で開催する教育関係者の講演を聞くことでFD講演的な学びを得ている。 ○社会福祉士指定科目相談実習指導教員講習会に1名、精神保健福祉士の実習指導教員講習会に1名派遣し資格を取得させた。</p>	<p>活発化させる。また、研修会報告を作成し形に残す。 ○教員の資質の向上を図るために開催される全国規模の研修会や講演に可能な限り教員を派遣し、学科会等で伝達するといった地道な活動を継続する。</p>
		<p>看護学部 ○本学を含む弘前市内の5大学・短大による保健科学研究会が発足し、研究発表を行っている。 ○学生による授業評価を実施し、その結果をホームページで公表し、授業改善に反映させた。 ○各種学術集会、研修会のアナウンスは掲示、学科会議で行い、参加を奨励している。また、教員も学術集会、研修会へは、休暇中のみならず教育との調整を図りながら参加し、資質向上に努めている。 ○全国学術集会等において、個人・共同研究の成果を公表発表している。また、若手研究者の研究にあたっては教授が研究テーマの示唆、スーパーバイズしている。 ○論文作成を積極的に推奨している。</p>	<p>○研究費獲得に向けて、若手研究者の申請強化を図る必要がある。 ○各種学術集会には積極的に参加し、その結果を公表する。 ○教員の評価として、学生による授業評価を行っているが、学生のみならず同僚評価も必要である。 ○FDの一環として、新任教員に対して、大学の規則、教員としての心得、試験監督、実習指導等について説明しているが、FDは組織的に実施する必要がある。</p>	
		<p>大学全体 ○「ポートフォリオを利用した自己評価と研究費配分(案)」を示し、全教員が試行している。 ○全学部で学生による授業評価を実施しており、その結果をもとに授業の充実や改善に努めている。 ○毎年、専任教員の研究業績をチェックし、ホームページで公開している。 ○弘前学院中高大連携研修会(2016. 1. 22)を開催し、リクルート進学総研所長が「教育改革の方向性、高大接続について」という内容で講演を行った。 ○2016(平成28)年4月には、同じくリクルート進学総研所長を講師に招いて「弘前学院大学学内改革研修会」を開催した。</p>	<p>○学部により授業評価の項目や回数、対象科目、開示の仕方、フィードバックの方法等が異なるので、ある程度統一できないか検討する。</p>	

4 教育内容・方法・成果

教育目標 学位授与方針 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目	評価の視点	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。	○学士課程・修士課程・博士課程の教育目標の明示 ○教育目標と学位授与方針との整合性 ○修得すべき学習成果の明示	S Ⓐ B C	文学部 ○学位授与の要件は学則、学生便覧、ディプロマポリシー等で明確に示されており、ホームページにも掲載している。	
			社会福祉学部 ○学位授与の要件については、学則及び学生便覧等に明示しており、ホームページにも掲載している。また、学科の目的・目標との整合性も図られている。 ○シラバスにおいては、習得すべき学習成果を示し、記載方法の統一化を図り、授業内容の詳細な記載を求め、授業外での学修アドバイスを記載する欄も設けた。	○シラバスの様式の改定をして各科目の修得すべき学習成果の明示ができた。今後は、学習成果をより確かなものにするために必要な、「授業外での学修アドバイス」を記載する欄の記載内容の充実化をさらに図りたい。
			看護学部 ○教育目標及び学位授与方針は学則に定め、学生便覧に明示している。また、教育目標と学位授与方針の整合性も図られている。 ○シラバスにおいて習得すべき学習成果を示し、記載方法の統一化を図った。	
			大学全体 ○学科の目的・教育目標については、前回の認証評価での指摘を受け、学位授与の要件との整合性を図りながら検討し、学則第3条に明示している。 ○ディプロマポリシーについては、自己点検・自己評価委員会で事務局が示した案をもとに、各学科でアドミッションポリシーや授与要件等を踏まえて検討・作成し、27年度からホームページに掲載している。	○3つのポリシーについては、規則の改正により、平成29年4月からは策定と公表が義務付けられるので、引き続き検討・見直しを加え、学校案内や学生要覧、募集要項等への掲載等についても検討する。
(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。	○教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 ○科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示		文学部 ○すべて整合的に編成され、学生便覧とホームページによって明確に示されている。学生に対しては更に詳しい「履修のしおり」等を適宜発行して使用している。特に、語学、資格関係、卒業論文については詳しい。	
			社会福祉学部 ○教育目標や学位授与の要件との整合性を図りながら、教育課程の編成・実施方針や科目区分、必修・選択の別、単	○学位授与方針については、これまでもホームページなどで公表し、その実施に努めてきた。 ○新しい「ディプロマポリシー、カリキュラム

		S ① B C	<p>位数等について、学則に明示している。また、学生便覧にはさらに詳細に記載している。</p> <p>○社会福祉実践コース及び人間科学コースの導入に伴い、卒業要件、コース選択等に関する詳しい説明を行うため学生便覧の改定作業を行った。また、それに伴って、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーも見直した。</p> <p>○ガイダンス説明時に「履修要項(チェックシート)」を資料として使用し、学生が理解しやすい内容に適宜修正を行うと共に、説明に先立ち、学務委員会で何をどこまで伝えるか打ち合わせしながら実施した。</p>	<p>ポリシー」を広められるように対策を講じる。</p> <p>○新カリキュラムで学ぶ学生の授業評価アンケート結果分析を行い、引き続き、新カリキュラムの導入による教育効果を検証する。</p>
			<p>看護学部</p> <p>○弘前学院大学の使命に基づき教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針を明示している。</p> <p>○教育課程の特徴、科目区分、必修・選択の別、単位数、基本的履修要件については学則に定め、学生便覧に明示している。</p> <p>○新入生ガイダンス及び新入生リトリート(修養)において、科目区分、必修・選択の別、単位数および科目選択上の説明と相談時間を定めて周知徹底している。</p>	<p>○科目履修の履修要件、保健師教育課程選択制、学位授与規定について、学生が理解し易くイメージしやすいように、学生便覧の内容の整理が必要であり、学務委員会を中心に検討中である。</p> <p>○シラバスの記載方法は、より詳細に、かつ関連科目との関係を理解しやすいように検討中である。</p>
			<p>大学全体</p> <p>○カリキュラムポリシーについては、自己点検・自己評価委員会が事務局が示した案をもとに、各学科でアドミッションポリシーや教育課程、授与要件等を踏まえて検討・作成し、27年6月からホームページに掲載している。</p> <p>○科目の履修及び単位の修得の方法については、学生便覧、大学院要覧に明示している。</p>	<p>○3つのポリシーについては、規則の改正により、平成29年4月からは策定と公表が義務付けられるので、引き続き検討・見直しを加え、学校案内や学生要覧、募集要項等にも掲載する。</p>
<p>(3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。</p>	<p>○周知方法と有効性</p> <p>○社会への公表方法</p>		<p>文学部</p> <p>○学生便覧、ホームページ等に掲載し、教職員及び学生、社会に周知・公表している。特に学生に対しては、適宜、別刷りの資料を作るなど、繰り返し説明し、徹底するようにしている。</p> <p>社会福祉学部</p> <p>○教育目標、学位授与方針および教育課程の編成方針については、学生便覧で学生に周知を図り、社会に対しては大学ホームページ、大学案内等に記載し公表している。</p> <p>○学生便覧、各種大学案内、ホームページに掲載されてい</p>	<p>○学生便覧、ホームページ、各種大学案内における情報のズレが発生しないよう随時確認の上で公開したい。</p> <p>○コース選択や専門演習I等の選択科目の情報提供については、説明会の時間だけでなく、資</p>

		S A B C	<p>る内容については、学務委員会とFD委員会が連携して、随時更新し新しい情報を発信している。</p> <p>○科目配置について学生が十分に理解できるように、オリエンテーションの際に学生便覧やシラバスを活用し、科目の位置づけなどを説明している。</p> <p>○今年度入学生より適用される新しいカリキュラムについては学生便覧に記載した。また、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針についても、議論し定めた。</p>	<p>料をホームページにアップロードするなど、学生がいつでも再確認できるようなシステムを構築する。</p>
			<p>看護学部</p> <p>○教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針については、学生便覧、臨地実習要項、大学ホームページに掲載し、学生に周知徹底している。また、社会に対しては大学ホームページ、各種大学案内等に掲載し公表している。</p> <p>○学生便覧、ホームページ、各種大学案内に掲載されている内容については随時更新し、新しい情報を発信している。</p>	
			<p>大学全体</p> <p>○大学案内、学生便覧、大学院要覧、ホームページ等に掲載している。学生に対しては、年度初めのオリエンテーションや履修登録の際にさらに周知を図っている。</p>	
<p>(4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。</p>		S A B C	<p>文学部</p> <p>○教育課程の編成や学位授与の要件等については毎年見直しを行っている。小改良は毎年あるが、おおむね4年に一度は大規模な課程改訂を行っており、その際に目標、方針、適切性に検証するのが慣例となっている。</p> <p>社会福祉学部</p> <p>○FDの一環として学生を対象とした授業に関するアンケート調査を行い、教育内容・方法、教育課程等に関する学生の意見や要望を聞き取り、教育課程の編成や学位授与要件の適切性について検証し、改善に活かしている。</p> <p>○FD委員会を開催し、授業に関するアンケートを学生の意見や要望を反映しやすい形式に改定実施し、アンケート結果をホームページで公開し、学生へのフィードバックを行った。</p> <p>○取得資格が多くカリキュラムが複雑化しているので、資</p>	<p>○次回のカリキュラム改訂は2017年度を予定し、現在作業中である。</p> <p>○学生の学習成果や自己評価を授業アンケートだけで測定することは難いため、各学年の成績上位、中位、下位層からのサンプル抽出、又は社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格取得を目指す学生層、教員免許取得を目指す層、一般企業を目指す層等からサンプル抽出し、了承を得られた学生に対する個別面接なども平行して行う。このことで、個別の学修ニーズの収集とその対応を図りたい。</p>

			格取得を目指す社会福祉実践コースと支援科目を幅広く学ぶ人間科学コースを設定し、履修モデルも提示した。	
		看護学部	○教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について、カリキュラム委員会、学務委員会で随時検討している。 ○学生による授業評価を実施し、意見や要望を生かしている。また、授業評価の結果はホームページで公開し学生へフィードバックしている。	○カリキュラム委員会、学務委員会の検討結果を基に改善を図る。 ○自己点検委員会、カリキュラム委員会、学務委員会の連携を密にし、定期的に教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について検討を行う。 ○教育や学生サポートに反映できるアンケートの開発を行う。
		大学全体	○学務委員会、学科会議、教授会等で必要に応じて協議している。	○3つのポリシーについては、27年度6月からホームページ、学生募集要項、大学ポータル等に掲載しているが、法律の改正を受けて現在見直し中である。

教育課程・教育内容

点検・評価項目	評価の視点(※修士課程)	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
(1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	○必要な授業科目の開設状況 ○順次性のある授業科目の体系的配置 ○専門教育・教養教育の位置づけ ※コースワークとリサーチワークのバランス	S A B C	文学部 ○配当年次としては基本的には教養教育を先行させているが、上級学年でも教養教育科目が選択できるように、カリキュラム上も時間割上も配慮している。 ○体系的に編成している。英会話、英作文など習熟度が特に重要となる科目については、科目名自体でそれが自明であるようにしたうえで、年次に I、II、III という順に配置している。 社会福祉学部 ○教育目標に従い授業科目を体系的に開設し、必修・選択の別及び配当年次についても留意している。現行カリキュラムにおいても同様に留意している。 ○専門教育に関する科目の履修に偏ることのないよう教養教育に関する科目の履修を基盤とした履修体系としており、新カリキュラムにおいても国家試験受験資格にこだわらない「福祉的素養と広い教養」を身につけた人材の輩出が可能となるよう編成した。	○新カリキュラム・現行カリキュラムの学生ともに、科目配置について学生が十分に理解できるように、オリエンテーションの際に学生便覧やシラバスを活用し、科目の位置づけなどを説明する機会を設けたい。 ○新カリキュラムの2年次コース選択事前アンケートでは、8対2の割合で社会福祉実践コースの方の希望者が多いので、人間科学コースの魅力をより鮮明にできるよう詳細な説明資料を作成する。

			<p>看護学部</p> <p>○授業科目は、人間性を養い、看護専門科目の理解に基礎となる「看護基盤科目」、看護実践科目を理解するための基礎となる「看護基礎科目」、看護専門職として必要な「看護実践科目」を体系的に編成し、年次配当は適切に開講してある。</p> <p>○大学としての一般教養科目、専門教育の理解を深めるための基盤科目、看護専門職として必要な科目を網羅している。</p> <p>○順次性のある科目配当と履修要件の基に体系的に配置し、開講している。</p>	<p>○ガイダンス、オリエンテーションの際に学生便覧やシラバスを活用し、科目配当並びに科目ごとの履修要件について、学生が十分に理解できるように説明し、相談の機会も設けていきたい。</p>
			<p>大学全体</p> <p>○教育課程の編成に当たっては、授業科目の体系的配置や専門教育・教養教育の位置づけに配慮している。また、1単位当たり最低15回（30時間）の授業を確保できるよう配慮している。</p>	<p>○全科目で15回＋試験の時間を確保するようにしたい。</p>
<p>(2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。</p>	<p>○学士課程教育に相応しい教育内容の提供</p> <p>○初年次教育・高大連携に配慮した教育内容</p> <p>※専門分野の高度化に対応した教育内容の提供</p>	<p>S A B C</p>	<p>文学部</p> <p>○高大連携に配慮した科目として、1年時に、英文法の基礎、英語音声の基礎、古文の基礎、漢文の基礎を置いている。</p>	<p>○現在、新カリキュラムの策定作業中であり、更なる充実が図られる。</p>
			<p>社会福祉学部</p> <p>○現カリキュラムについては、教育目標に基づいて体系的に科目の配置を行い、当該分野に関する基礎的素養を涵養し、高度な専門的知識・技術の習得がなされるよう編成している。</p> <p>○今年度の入学生から適用される新カリキュラムは、カリキュラム検討委員会による熟議の上で作成され、学士課程教育に相応しい教育内容の提供ができるよう科目配置に留意した。</p> <p>○大学生として学ぶ意欲を形成する導入部分で重要な時期である1年次前期には、「ヒロガク教養講話」を開講し、地域の第一線で活躍する講師陣から講話をもらい、大学教育の基盤となる教養を身に付けることができるよう努めた。</p>	<p>○専門科目担当教員の数が少なく専門的知識や技術を教育する環境が整っていない。専門科目担当教員の配置を拡充させ、教育目標にもとづいた体系的な教育環境の整備に取り組む。この課題は前年と同じであり、早急に対応していきたい。</p> <p>○専門分野の高度化に対応した教育内容の提供の観点から、本学社会福祉学部では、以下の科目について社会福祉士養成校指定規則による必要単位の倍の時間で学んでいる(心理学・社会学・障害者福祉論・児童福祉論・公的扶助論・雇用政策論・更生保護論等)。このことについて学生アンケートを実施して効果検証をしなければならないと考える。</p>
			<p>看護学部</p>	<p>○教員の専門性を維持・向上させる。</p>

		<p>○教育目標に基づいて体系的に科目の配置を行い、当該分野に関する基礎的素養を涵養し高度な専門的知識・技術の習得がなされるよう努めた。</p> <p>○初年度には教養講話である「ヒロガク教養講話」を開催し、大学教育の基盤となる教養教育の充実を図った。</p> <p>○看護専門職としての学士課程教育に相応しい教育内容を網羅している。</p> <p>○推薦入学者に対して入学前課題の提出を課し、新入生の強化対策の資料としている。</p> <p>○専門分野の一部では非常勤職教員を雇用し、高度な専門教育を実施した。</p>	<p>○高度な専門性を要する授業科目は、それぞれ専門の非常勤教員を雇用して教育内容の担保をする。</p> <p>○臨地実習は付属・関連施設を有しないため、分散して実習施設を依頼しているが、専任教員が全施設の臨地実習指導に関与する。また、学生数によっては非常勤実習助手を雇用して教育の担保を図る必要がある。</p>
		<p>大学全体</p> <p>○学生のニーズや時代の要請を踏まえた内容になるよう、学務委員会、学科会議、教授会等で必要に応じて協議している。</p> <p>○大学での学修をスムーズに行うために「基礎演習」を設け、調べる、まとめる、発表する、討論するなどの基礎的な能力を身に付けさせるようにしている。</p>	

教育方法

点検・評価項目	評価の視点(※修士課程)	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
(1)教育方法および学習指導は適切か。	<p>○教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用</p> <p>○履修科目登録の上限設定、学習指導の充実</p> <p>○学生の主体的参加を促す授業方法</p> <p>※研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導</p>		<p>文学部</p> <p>○演習を多く設定しており、学生個人の調査、発表また参加学生による議論が活発に行われている。もともと、演習科目の必修単位は多く、卒業論文も必修であり、学生の主体的参加による授業は、まさに本学部を中心に、各教員が工夫して行っている。</p> <p>○他の授業においても、学生の主体的参加を促すための工夫をしており、授業形態の採用も適切である。履修科目数の上限設定は、学則改訂により、適切な範囲に収まっている。</p> <p>社会福祉学部</p> <p>○学生便覧やホームページなどで公表した教育目標に基づき、講義・演習・実習などのさまざまな授業形態を適切に配置した教育課程を実施している。</p>	<p>○現在策定中の新カリキュラムでは、上限単位数の見直しも行われる。</p> <p>○今年度入学生適用カリキュラムでは基礎演習Ⅱ(2年次)科目を追加し、学年ごとのばらつきを是正した。基礎演習Ⅱを開講した改善効果について、次年度(2017)には検証したい。</p>

		S Ⓐ B C	<p>○履修科目登録の上限は1年間で総数52単位とし、その単位の中には、資格に関する単位を含めないように設定している。</p> <p>○基礎演習や専門演習Ⅰなど演習形態の授業を必修科目とし、学生の主体的参加を促した。</p> <p>○基礎演習や専門演習Ⅰなど演習形態の授業を必修科目とし、学生の主体的参加を促した。</p> <p>○学生の主体的参加を促す演習科目が1年次の基礎演習、3年次の専門演習Ⅰ、4年次の専門演習Ⅱという配置だったので、今年度入学生適用の新カリキュラム編成にあたっては2年次(基礎演習Ⅱ)を追加し、4年間の一貫性を構築した。</p> <p>○演習形態の必修科目である基礎演習及び専門演習Ⅰでは、担当する教員が一堂に会してゼミ方針の紹介する時間を作り、学生の興味や研究テーマとのマッチングに応えられるように工夫した。</p> <p>○新カリキュラムの2年次コース選択のための事前説明会を1年後期に実施し手厚く指導した。</p>	<p>○学生への学位授与基準、学位授与手続きを説明する機会が限られていることから、説明の機会を増やす検討を引き続き行う。</p> <p>○学生相談のチューター制を設けているが、連続して授業を欠席しているなどの学生の呼び出しが中心になり、学生自らの申し出によるものが極端に少ない。そのため、気軽に相談できるような雰囲気づくりを進めたい。</p> <p>○専門演習Ⅱにおける研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導についてチェックがないままになっている。社会福祉学部ホームページに特設ページを作り、各ゼミの卒業論文のタイトルと要旨を掲載し成果が公表できるようにしたい。</p>
			<p>看護学部</p> <p>○学生便覧に明示しホームページなどで公表した教育目標に基づき、講義・演習・実習などの授業形態を適切に配置した教育課程を実施した。</p> <p>○履修科目の上限は特に設定していないが、必修科目の年次配置、臨地実習履修は全ての必修科目を修得していることなど、順次性と関連のある科目についてはバリアを設定し、履修制限がある。</p> <p>○演習はグループワークを取り入れ、主体的学習を促し、その成果を発表させる。また、学内実習、臨地実習は教員の示唆と助言のもとに主体的学習を主旨としている。</p> <p>○卒業研究は必修とし、研究テーマの決定、研究計画書の作成等主体的学習を主旨とし、論文作成まで個別に指導している。</p>	<p>○学生の主体的参加を促す必修科目(基礎演習、臨地実習、卒業研究)では、学生の知的向上心を確立するためにも、専門書・メディア・看護医療器材等の充実が不可欠であり、普段から充足する必要がある。</p>
			<p>大学全体</p> <p>○教科・科目の特徴や内容に応じて、講義、演習、実験・実習等の授業形態を適切に採用している。</p> <p>○予習復習等課外における学修時間を十分に確保できる</p>	

			<p>よう、履修科目登録数の上限を定めている。</p> <p>○GPA制度を導入して、安易な履修を防止し、履修放棄による不合格科目をなくし、学修に対する意識をより一層高めるようにしている。</p>	
<p>(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか。</p>	<p>○シラバスの作成と内容の充実</p> <p>○授業内容・方法とシラバスとの整合性</p>	<p>S A B C</p>	<p>文学部</p> <p>○完全にシラバスに基づいて展開されている。授業はシラバスにそって行われる。シラバスとの整合性は、学生による講義評価によってチェックを受ける。また、すべての講義ではないが、相当数の講義は毎時間のコメント、リフレクションカードの提出を義務付けている。</p> <p>○シラバス作成のマニュアルを整備し、内容は飛躍的に充実した。</p>	
			<p>社会福祉学部</p> <p>○統一された書式でシラバスを作成し、オリエンテーションにおいて全学生に配布した。また、シラバスの様式を変更し、到達目標と評価基準の明確化を行った。また、毎回授業の内容について詳細な記載を求め、授業外での学修アドバイスを記載する欄を設け、より詳細に情報を提供することを心掛けた。</p> <p>○前回認証評価時にシラバスの記載の精粗について指摘を受けたので、今年度のシラバスから原稿チェックを学部長、学科長、学務主任により行った。記載内容の精粗の確認と、詳しく書き直してもらい依頼を出せる責任体制を構築した。また、社会福祉士養成校指定規則、精神保健福祉士養成校指定規則など関係規則で授業内容に盛り込むべき事項などの漏れがないかという観点からも確認した。</p> <p>○社会福祉士養成校指定規則により、20人以下でクラス編成を行わなければならないソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは、3クラスに分け、統一したシラバス内容で授業を展開している。また、学習進度や授業内容に差が生じないように毎週担当教員による打ち合わせも実施した。</p> <p>○各科目がシラバスに沿って展開されているかFD委員会と学務委員会が連携し、授業に関するアンケートや学生からの授業に関する要望などの声に傾けて可能な限り把握した。</p>	<p>○シラバスの内容に沿った授業が実際に展開されているか確認はできなかった。次年度(2017)FD委員会においてシラバスと実際に実施された授業内容についての検討を行う。</p> <p>○シラバスの様式改定をしたものの、教員によっては詳細かつ丁寧に記載されているものとおまかな記載のものがあった。そのため、学部長・学科長・学務主任による点検と必要な場合の改善を求める活動を引き続き次年度も行いたい。</p>

			<p>看護学部</p> <ul style="list-style-type: none"> ○統一された書式でシラバスを作成し、オリエンテーションにおいて全学生に配布した。授業は、ほぼシラバスに沿って展開されている。 ○臨地実習は大学の理念、看護学実習の法的基準に基づいた共通の実習要項を作成し、実習開始前に要項を配布し、実習の全容をオリエンテーションしている。さらに、各領域の詳細な実習要項を作成し、全学生に配布し、ほぼ要項にそって実習展開している。 ○臨地実習は、実習施設の指導者に指導者用実習要項を配布し、事前打ち合わせを行って効果的な実習展開をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後、授業評価アンケートなどのFDを通して、シラバスと実際の授業内容についての検討を行う。 ○学生がシラバスを活用して授業展開に加われるように働きかけが必要である。 ○教員同士がシラバスを活用して、授業をリンクできるような工夫が必要である。
			<p>大学全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ○定められた様式に基づいて作成しているが、本人の裁量に委ねられる部分が多いので、教員により内容に濃淡がある。 ○授業に関しては、基本的にはシラバスに基づいた授業が展開されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○シラバスの内容の一層の充実を図るため、より詳細で具体的な基準を示し、基準どおりに記入させるよう工夫する必要がある。
(3)成績評価と単位認定は適切に行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> ○厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） ○単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 ○既修得単位認定の適切性 	S A B C	<p>文学部</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今年度の入学生からはGPA制度が導入された。学生には、この旨を周知し、また教員間でも評価方法について確認を繰り返している。 ○シラバス上に評価方法・評価基準を明示している。出欠のチェックは厳密に実施されている。5回以上休むと試験を受けることが出来ない。 ○既習得単位の認定については、明確な方針と過去の経験があり、適切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価方法、評価基準はシラバスに明記されているが、十分とは言えないケースもある。
			<p>社会福祉学部</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学生便覧において単位修得の主旨、評価や単位認定の基準等を定め、その通りの成績評価での実施を各科目担当者に依頼した。 ○評価方法や評価基準について教員間で共通認識を図れるよう、シラバスにおいて明記し、情報の共有をした。 ○今年度から適用された本学GPA制度について教授会の議を経て定めた。また、この評価制度を在学生に周知で 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価方法及び評価基準の明示について教員間で一定の共通認識を図っているが、具体的な表記においては統一が不十分であるため修正を図る。学部長・学科長・学務主任による点検と必要な場合の改善を求める活動を進めたい。 ○GPA制度について学生便覧記載だけでは周知に限界があるため、新学期の学生オリエンテーション時の説明と学内掲示板による注意喚起

		<p>きるように学生便覧に掲載し、ガイダンス時に周知した。</p> <p>看護学部 ○評価方法や評価基準について教員間で共通認識を図り、シラバスに明記している。 ○学生便覧に単位習得の主旨および単位認定を定めており、学生便覧をオリエンテーション時に全学生に配布し、解説した。 ○成績評価の提出期限などは大学の前期・後期行事予定表に明記してある。 ○単位制について、新入生ガイダンスで説明し、学生便覧に単位修得の要旨、単位認定の規定を定めており、全学生に学生便覧を配布してオリエンテーション時に解説している。 ○臨地実習評価については、実習内容に連動する評価項目を表記し、適切に評価している。</p> <p>大学全体 ○評価の方法や基準については、シラバスに記載欄を設けているため、全教員が記入しているが、教員により評価項目や方法にバラツキがある。 ○評価及び単位認定については、基準に基づいて厳格に行っている。 ○GPAについては、当面は個々の理解度の把握に努め、それに基づく授業の支援や充実のために活用する。</p>	<p>など複数の広報媒体で周知を徹底させたい。</p> <p>○学生に分かりやすい評価方法・評価基準を提示、簡潔なシラバス表記にむけて、これからも改善を図っていく。</p> <p>○より適切な評価を行うため、評価項目や方法、評価基準をある程度具体的に示す必要がある。</p>
<p>(4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。</p>	<p>○授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施</p>	<p>文学部 ○授業アンケートは毎年実施し、成果については定例の会議において話し合われている。</p> <p>社会福祉学部 ○平成20年度より授業評価アンケートの実施に関するFD委員会を立ち上げ、年2回(前・後期の最終講義)アンケートを実施してきた。26年度からホームページへ掲載し、毎年更新してきた。 ○調査結果のフィードバックについては、数値化データ及び授業改善の要望として自由記述されたもの(学務課の職員がパソコンで打ち直して、学生が特定できないよう工夫</p>	<p>○組織的研修は実施していないので、研修、研究の場を設ける。</p> <p>○授業アンケート以外に教育内容や方法の改善について検討ができていないため、FDなどを活用し教育内容や方法について、引き続き検討を行う。 ○今年度から適用の新カリキュラムでは、福祉以外の分野への学習意欲に応えられるよう科目を配置し、民間企業就職・公務員といった進路指導もしやすくなったので、この検証もしてい</p>

S A B C	<p>し、プライバシーの確保に配慮)を授業担当者に返却し、授業方法の見直しや成績評価方法の改善に役立てた。</p> <p>○本学礼拝堂にて本学部をはじめ全教職員の出席のもとリクルート進学総研所長による「人口減少時代を迎えた大学改革の方向性」と題した講演を聞いて、文科省の教育改革の方向性を学ぶと共に、それに備えるための準備・対応について学部教員間で情報共有して改善に役立てた。</p> <p>○オープンキャンパス、高等学校から依頼の模擬講義を通して、学部内で授業内容・方法について教員間で話題として議論を深めた。</p>	<p>きたい。</p> <p>○授業の内容及び方法の改善を図るための組織的研修の観点から、今年度は「入試改革後の社会福祉学部求められる社会的要請、教員の意識改革」をテーマに外部講師を招いてFD研修会を開催する。ここから学ぶことにする。</p>
	<p>看護学部</p> <p>○授業アンケートを行い学生の意見・要望を教育内容や方法の改善に反映させた。</p> <p>○オープンキャンパス、高等学校から依頼の模擬講義を通して、学部内で授業内容・方法の改善が図られた。</p> <p>○年2回の学生による授業評価の結果を科目担当教員にフィードバックし、各教員から提出された授業改善の方策を公表している。</p>	<p>○授業アンケート以外に、教育内容や方法の改善について検討を行う。</p> <p>○教員個々に教授法等の研修を受けて自己研鑽しているが、組織的に教員の教授法に関するFDが必要である。</p>
	<p>大学全体</p> <p>○授業の充実や改善に資するため、全学部で授業アンケートを実施し、集計結果については学生及び教員に開示している。また、学部ごとにホームページ上でも公開している。</p> <p>○授業の工夫や改善については、教員個々の裁量に任せているところが多く、組織的な対応についても学部によって濃淡がある。</p>	<p>○授業の工夫や改善に関する取組は、各学部において個別にあるいは組織的に行われているが、学部によって取組に濃淡があるので、統一する必要がある。</p>

成果

点検・評価項目	評価の視点(※修士課程)	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。	<p>○学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用</p> <p>○学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)</p>		<p>文学部</p> <p>○評価指標は、教員個人にかかるものはあるが、全学的には開発されていない。就職先、卒業生評価は、組織的には実施していないが、適宜、学科の会議等で報告され、情報が共有されている。</p> <p>○学生にはポートフォリオ、チェックシートなどで自己評価させている。</p>	<p>○ポートフォリオの完全実施、卒業生評価のシステム化などが急がれている。</p>

		S Ⓐ B C	<p>社会福祉学部</p> <p>○授業評価アンケートにおいて学生の予習復習の時間数不足・能動的学習姿勢への転換の困難さが確認された。そのため、「学士力向上ガイドブック」を活用してこれらの対策を基礎演習や専門演習Ⅰで行った。また、同ガイドブックの改訂版を完成させ、次年度全学部生に配布できる用意を整えた。</p> <p>○就職内定状況について教授会にて報告してもらい、学生の進路の動向を全教員で情報を共有した。これにより、ゼミナールなどを通じて大学での学修と就職活動の両立のための指導助言に役立てることができた。</p> <p>○過去5年間の卒業生を対象とした「入試形態別の国家試験受験資格取得率、合格率、福祉専門職就職率・ドロップアウト率」などを分析した。入試において学力試験を課す課さない群における入学後の4年間の学びと卒業後の進路に与える影響を検討した。その結果、AO入試入学者の国家試験受験資格取得率、合格率が低く、対象となる学生の基礎学力を伸ばせるよう、きめ細かく指導していく必要性が見いだされた。</p>	<p>○学生の学習成果を測定するための評価指標の開発について見識の深い外部講師を招いてFD研修会を開き、学ぶ。</p> <p>○卒業後の評価については、組織的対応が遅れたため対策が必要である。実習施設など教員が訪問する機会がある職場に就職した学生(卒業生)が一定数いる。こうした卒業生の評価を聞き取りし、大学で身につけさせる事柄や新たな改善点を見つけられるよう努めたい。</p>
			<p>看護学部</p> <p>○授業アンケートにおいて学生の学習成果及び自己評価を行い、結果を分析して今後の学習指標の参考とした。</p> <p>○看護学部の「就職説明会」に参加する施設から、本学についての評価・意見が寄せられている。また、就職先の募集パンフに、本学卒業生の意見が多数掲載されている。</p> <p>○臨地実習などのレポートで、学習成果の向上が確認されている。</p>	<p>○学生の学習成果や自己評価を授業アンケート、レポート、就職先のパンフなどで確認するほかに、個別面接なども行って精査する必要がある。</p>
			<p>大学全体</p> <p>○学習の成果を測定するための方法や指標は特に定めていないが、就職課等で実施するSPIや公務員模試、資格試験の合格率等で間接的に知ることができる。</p> <p>○授業アンケートにおいて、学生の大学生活に対する設問を設けて評価している。</p>	<p>○授業アンケートの学修や進路に関する評価項目の充実を図る必要がある。</p> <p>○卒業後の動向や満足度等についても、まずは地元や関係の深い企業等を対象に、実施できるかどうかについて検討する必要がある。</p>
(2)学位授与(卒業・修了認定)は適	○学位授与基準、学位授与手続きの適切性		<p>文学部</p> <p>○学位授与の基準、手続きについては、学則と学部規則、</p>	

切に行われているか。	※学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策	S A B C	学位授与規則に明示されており、それに基づいて適切に行われている。	
			社会福祉学部 ○学位授与の基準および手続きについては、学則と学位授与規則に示されており、それに基づいて適切に行っている。 ○学位授与の基準や手続きについては、オリエンテーションで学生への周知を行っている。 ○怠惰の防止や卒業を安易に諦めることのないよう、卒業年次における講義出席率の低い学生や卒業要件の130単位取得が厳しい学生への、注意喚起を学部教員一丸となって行った。評価を甘くすることなく「単位認定の厳格性を確保する」ことに加え、学生の学習意欲と能力を引き伸ばし卒業に漕ぎ着ける教育的指導に力を入れた。	○学生への学位授与基準、学位授与手続きを説明する機会が限られていることから、説明の機会を増やす検討を引き続き行いたい。 ○卒業までの単位取得が厳しい学生が気軽に相談できるよう「学生相談のチューター制」を設けている。しかし、こうした該当学生の利用率が高くないため、アウトリーチ型の相談体制の充実化に引き続き努める。
			看護学部 ○学位授与の基準及び手続きについて、学則と学位授与規則にもとづき適切に行った。 ○学位授与の基準や手続きについては、オリエンテーションで学生に周知している。	○これまで、学生への学位授与基準、学位授与手続きを説明する機会が限られていることから、その機会を増やす検討を行う。
			大学全体 ○学位授与の基準や手続き、卒業の要件等については、学則及び学位授与規則で定められており、学位授与(卒業認定)はそれに基づいて行っている。 ○ディプロマポリシーについては、自己点検・自己評価委員会で事務局が示した具体案をもとに各学部で作成し、HPに掲載している。	○規則の改正により、3つのポリシーは平成29年4月から策定と公表が義務付けられるので、現行のディプロマポリシーについても検討・見直しを加える必要がある。

5 学生の受け入れ

点検・評価項目	評価の視点	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。	○求める学生像の明示 ○当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 ○障がいのある学生の受		文学部 ○募集要項等に求める学生像は明示されている。しかし、絶対的な学力水準などは明示していない。AO入試、推薦入試の合格者については、10月以降、「入学前課題」として三度にわたる添削指導を行っている。入学前に修得すべき知識内容とその水準については、これによってある程	○施設設備の関係上、受け入れ学生に対するサービスやケアが不十分なところもあり、改善が望まれる所である。

	<p>け入れ方針</p>	<p>度は提示できている。 ○障がいのある学生の受け入れについては、募集要項には明記してあるが、方針として特筆されていない。ただし、過去の実績として視覚・聴覚・肢体に障がいのある学生を受け入れており、文学部として基本的に受け入れることについては、学部内での了解が成立している。</p>	
	<p>S Ⓐ B C</p>	<p>社会福祉学部 ○学生募集要項及びホームページにて入試形態や募集人数並びに学部として求める学生像を明示し、周知に努めている。 ○修得しておくべき知識等の内容・水準の明示については学生募集要項の入試形態ごとの試験科目を提示すると共に出題範囲を明示した。 ○AO入試の場合は、課外活動や資格取得に熱心に取り組んだ人、学問を通じて自分の夢を実現しようとする意欲のある人などのように、卒業後の社会貢献が期待できるような人材に応募してもらえるよう明示している。 ○AO入試や推薦入試の合格者には、入学前プログラムとして、時事問題の課題レポートを課すなど、入学までに修得すべき文章能力について添削指導している。 ○障がいのある学生の受け入れ方針については、学生募集要項や「障がいをもつ学生支援のためのパンフレット」を活用し、入学後の支援を円滑に行うため、オープンキャンパスや個別相談を通じて、受験と合格後の不安の対応を行っている。 ○障害者差別解消法による合理的配慮規定等施行に対応する「障害をもつ学生支援ガイドブック」の改定にむけ企画書、章立構成を作った。</p>	<p>○修得しておくべき知識等の内容・水準の明示については学生募集要項のみに頼っていたところが課題である。そこで、受験生が最もアクセスしやすいホームページにアドミッションポリシーとディプロマポリシーを記載し、周知を図りたい。 ○障がいのある学生の受け入れ方針の周知については、学生募集要項のみに頼っていたところが課題である。ホームページや大学パンフレットに記載し更なる周知に努めたい。また、今年度に完成させた企画書に基づき、「障害をもつ学生支援ガイドブック」の改訂版を次年度(2017)に発行する。 ○障がい学生修学支援委員会において学業・生活全般の支援について検討し、学科で支援に関する情報共有を図り、障がい学生の修学保障に努めていきたい。</p>
		<p>看護学部 ○学生募集要項を作成し、各入試形態や募集人数並びに学部として求める学生像を明示し、周知に努めている。また、ホームページにも記載し周知を図っている。 ○修得しておくべき知識等の内容・水準の明示については、学生募集要項で入試形態ごとの試験科目を提示するとともに、出題範囲を明示することにより理解を求めている。また、推薦入試での合格者には入学前プログラムを</p>	<p>○修得しておくべき知識等の内容・水準の明示については学生募集要項のみに頼っていたが、受験生が最もアクセスしやすいホームページに掲載し周知に努めたい。 ○障がいのある学生の受け入れについて、学科会議で障がい学生の修学を検討していきたい。 ○求める学生像は学生募集要項、ホームページに掲載し、受験生に対して周知を図りたい。</p>

			<p>施し、課題レポートを課して添削指導を行い、入学前までに修得しておくべき文章能力について指導に当たっている。</p> <p>○障がいのある学生受け入れは、応募時の申告によって検討し、看護職としての法的欠陥のない限り受け入れ、学生個々に支援している。</p>	
			<p>大学全体</p> <p>○アドミッションポリシーは、20年度から募集要項に明示している。24年度からは学部ごとのポリシーも明示している。また、3つのポリシーについては、27年6月からホームページへ掲載している。</p> <p>○AOや推薦入試合格者に対し、入学前教育として課題学習を行っている。</p> <p>○障がい学生就学支援委員会の適切な支援が可能な範囲で対応している。</p>	<p>○規則の改正により、3つのポリシーは平成29年4月から策定と公表が義務付けられるので、現行のアドミッションポリシーについても、学力の3要素との関連から検討・見直しを加える必要がある。</p>
<p>(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。</p>	<p>○学生募集方法、入学者選抜方法の適切性</p> <p>○入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性</p>	<p>S</p> <p>Ⓐ</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>文学部</p> <p>○厳格かつ適切に実施されている。</p>	
			<p>社会福祉学部</p> <p>○学生の募集方法、入学者の選抜方法の適切性については入試委員会で審議し、教授会の議を経て改善に努めている。</p> <p>○入試問題の作題や問題の管理については入試広報センターの金庫に厳重に管理し、複数の職員で仕分け作業等の対応をしている。また、学長名での作題依頼と業務に当たっての秘密保持について注意を徹底している。</p> <p>○各入試形態において筆記試験の点数評価のみならず、面接試験の客観評価、複数員による点数評価後の確認作業の徹底により不正防止と透明性の高い入試選抜を実現している。</p> <p>○合同入試委員会において、本学作成の「入試業務確認事項及び入試実施における留意点」や、文部科学省高等教育局大学振興課長通知「大学入学選抜における出題・合否判断ミス等の防止について」を配布し、入試業務について確認を行っている。</p>	<p>○AO入試の出願手続き書類について受験生を送り出す高校側からの要望に応え、一部書式を簡略化し担任教員の負担を軽減できるように改善した。</p> <p>○ここ数年応募者がいない帰国子女入試並びに外国人留学生入試についてはその応募がない原因を早急に検証して改善を図りたい。留学生募集については日本語を学ぶ専門学校等との連携を図る。</p> <p>○年度末の入試委員会において当該年度の入学試験全般における工夫や改善の必要な項目を検証する機会を新たに設けるようにしたい。</p>
			<p>看護学部</p> <p>○学生の募集方法、入学者の選抜方法の適切性について</p>	<p>○入学試験における出題ミスや入学者選抜に関するトラブルが発生していないため年度の全体</p>

		<p>は、入試委員会で審議し、改善の必要な箇所は時間を置かずに教授会の議を経て改善に努めている。</p> <p>○入試問題の作題や問題の管理については入試広報センターの金庫に厳重に管理し、複数の職員で仕分け作業等の対応をしている。また、学長名での作題依頼と業務に当たっての秘密保持について注意を徹底している。</p> <p>○各入試形態において筆記試験の点数評価のみならず、面接試験の客観評価、複数員による点数評価後の確認作業の徹底により不正防止と透明性の高い入試選抜を実現している。</p> <p>○合同入試委員会において、本学作成文書「入試業務確認事項及び入試実施における留意点」や、文部科学省高等教育局大学振興課長通知「大学入学選抜における出題・合否判断ミス等の防止について」を配布し、入試業務に関する確認を行っている。</p>	<p>総括が疎かになっている。今後、入試委員会において当該年度の入試全般についての総括、検証を行い、改善に取り組みたい。</p>
		<p>大学全体</p> <p>○様々な方法で幅広い募集、多様な選抜が行われるよう配慮している。</p> <p>○選抜に際しては、公正さを保つため、受験番号と点数以外の個人情報は提示しないで行っている。</p>	<p>○募集や選抜の方法等については、高大接続改革の進展に合わせて適切に対応する。</p>
<p>(3)適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。</p>	<p>○収容定員に対する在籍学生数比率の適切性</p> <p>○定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応</p>	<p>文学部</p> <p>○未充足であり、オープンキャンパス、高校訪問等の機会を通して、学部・学科の魅力を周知して行くようにしている。</p> <p>○2016年度の新入生で見ると、収容定員に対する入学者数は86%であり、前年度よりは改善傾向にあるが、なお未充足であるので、進路相談会やオープンキャンパスなど、あらゆる機会を捉え、総力を挙げて対応を進めている。</p> <p>社会福祉学部</p> <p>○極端な未充足にはなっていないが、収容定員に対する在籍学生数の比率80%には届いていない。</p> <p>○進学情報雑誌への広告、業者主催の高校生進路相談会やガイダンスなどを活用し、本学の魅力や取得が目指せる資格の説明を行い志願者増加、入学者増加を目指している。また、オープンキャンパスの回数を増やし、高校生が直接</p>	<p>○学内の「新戦略会議」を中心として入試の時期、形態や、広報のあり方などを改善し、定員割れの状態を解消したい。</p> <p>○充足率100%を実現するために、定員の削減(80名→50名)を検討している。</p> <p>○従来の入学案内に加えて、青森県社会福祉協議会福祉人材センター等と連携し、少子高齢化時代に求められる福祉人材の養成機関として本学社会福祉学部があることを積極的に紹介頂くなど連携を強めていきたい。</p>

		<p>大学構内を見学し授業を体験できるような企画を実施し志願者増加、入学者増加を目指している。 ○教職員による高校訪問も継続して実施しており、県内や北東北の高校を地道に回って本学のPRに努めている。</p>	<p>○県内の高校やキリスト教系の高校との交流を促進し、本学部教員による出前講座等で「福祉を学ぶ魅力」を直接伝え、受験志願者が増加するよう努力したい。 ○弘前市・弘南鉄道・弘前学院の協定締結により、同鉄道利用促進・活性化プロジェクトを進め、地域との信頼関係を深め、本学への地域の関心度を高める。</p>
		<p>看護学部 ○過剰あるいは極端な未充足になっていないため、収容定員に対する在籍学生数比率の適切性は概ね妥当である。 ○2016年度現在、未充足数があることから学生募集の改善に取り組んでいる。進学情報雑誌への広告、業者主催の高校生進路相談会やガイダンスに教職員を派遣し、高校生へ看護学部で学ぶ魅力や取得が目指せる資格の説明を直接行って志願者増加、入学者増加を目指している。また、平成26年度よりオープンキャンパスを5回に増やし、高校生が直接大学構内を見学し、授業を体験できるような企画を実施し志願者増加、入学者増加を目指している。さらには、教職員が主に北東北の高校進路指導室各所を訪問してPR活動をする等地道な広報を展開している。</p>	<p>○県内のキリスト教系高校との交流促進、出前講座への教員派遣等により看護を学ぶ魅力を直接伝え、志願者が増加するよう努力したい。</p>
		<p>大学全体 ○入学者数は22年度の218名を最後に、在籍者数も同じく813名を最後に8割（基準協会目標値）に達していない。 ○24年度から外部の専門家を招いて新戦略会議を立ち上げ、具体的な取組について協議検討し実践している。 ○27年度からは、学生募集の原点に立ち返り、県内や近県での高校訪問に重点を置いた取り組みを行っている。</p>	<p>○法人内の聖愛高校や同じキリスト教系の東奥義塾高校、地域内高校との連携強化に努める。</p>
<p>(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切</p>		<p>文学部 ○公正かつ適切に実施されている。</p>	<p>○入学者選抜の第三者による検証、選抜入試結果の開示などは現在検討中の課題である。</p>
		<p>社会福祉学部 ○アドミッションポリシーを学生募集要項やホームページ</p>	<p>○アドミッションポリシーとディプロマポリシーを高校生に直接訴えかけることができる媒体</p>

に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。		S Ⓐ B C	<p>ジに記載し、志願者に周知している。また、各入学試験も公正に実施しており、入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づいて公正かつ適切に実施している。</p> <p>○学生募集要項ならびにホームページの掲載事項に関しては、年度ごとの更新時に入試委員会で検証し、その結果を反映させている。</p> <p>○2017年度からの3つのポリシーの法制化を視野に入れ、「カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー・アドミッションポリシー」の見直しを検討している。</p>	としてSNSなども活用し周知を図っていく。
			<p>看護学部</p> <p>○アドミッションポリシーを学生募集要項やホームページに掲載し、志願者に周知している。また、各入学試験も公正に実施している。</p> <p>○アドミッションポリシーを掲載した学生募集要項並びにホームページの掲載事項に関しては、年度が変わって更新する際に、入試委員会で毎年検証し、その結果を反映させている。</p>	○オープンキャンパスの参加者および業者主催高校生のための進路相談会・ガイダンス等の機会をチャンスと捉え、看護学部の良いところを高校生に直接伝え、入学者の増加を図りたい。
			<p>大学全体</p> <p>○学部ごとの入試委員会、合同入試委員会、新戦略会議等を通して募集方法や選抜方法について点検している。</p>	

6 学生支援

点検・評価項目	評価の視点	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
(1) 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。	○学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する方針の明確化	S Ⓐ B C	<p>大学全体</p> <p>○修学や生活、進路支援に関する支援方針を明確にし、オリエンテーションや学生便覧、HP、掲示等を通して、情報の提供や周知に努めている。</p> <p>○経済的支援については、外部奨学金のほかに授業料全額免除の特待生制度(12名)、授業料半額免除の学内奨学金制度(20名)、無利子貸与奨学金制度(60名)など、特待生制度や学内奨学金制度の充実に努めている。</p> <p>○平成27年度からは、年間の授業料の10%を免除する「ハンドベルクワイア所属学生授業料免除制度」、今年度からは、年間の授業の20%を免除する新たな学内奨学金制度「夢サポート20奨学金(45名)」の創設や、各学</p>	

			<p>部授業料の適正価格への改定を実施して、学生の経済的負担の軽減に努めている。</p> <p>○生活支援と進路支援については、各学部の学生委員会と学務委員会の教員が中心になり、学生からの相談に応じている。</p>	
<p>(2) 学生への修学支援は適切に行われているか。</p>	<p>○留年者及び休・退学者の状況把握と対処の適切性</p> <p>○補習・補充教育に関する支援体制とその実施</p> <p>○障がいのある学生に対する修学支援措置の適切性</p> <p>○奨学金等の経済的支援措置の適切性</p>	<p>S</p> <p>Ⓐ</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>大学全体</p> <p>○成績や学生生活等の問題を抱える学生に対しては、チューターや学務委員、学生委員、授業担当者、担当部課等が連携を密にし、適切に対応している。</p> <p>○補習・補充については、基本的には個別に行われているが、社会福祉学部における福祉関係資格取得希望者への補習や看護学部における基礎学力不足者への補充学習のように組織的に行っているものもある。</p> <p>○障がいのある学生には、障がい者修学支援委員会が適切に対応している（ノートテイク等）。</p> <p>○本学の学生のおよそ6割は、日本学生支援機構や、市町村、民間、学内等の何らかの奨学金を利用している状況にあるため、奨学金等の支援を行う際には、学生の成績や生活状況、家庭の状況等をきちんと把握し、総合的に判断している。</p> <p>○ワークスタディーではないが、学生を経済的に支援する手立てとして、オープンキャンパススタッフ、図書館スタッフ、大学行事スタッフ等として、学生アルバイトを使うようにしている。</p>	<p>○補習・補充については、個別に行われているが、学生に有利不利が生じないよう組織的な実施について検討する必要がある。</p> <p>○出欠管理を適切に行って、予兆を早期に発見し、素早く何らかの対応を行うような組織的な支援体制の検討が必要になってきている。</p>
<p>(3) 学生の生活支援は適切に行われているか。</p>	<p>○心身の健康保持・増進および安全・衛生への配慮</p> <p>○ハラスメント防止のための措置</p>	<p>S</p> <p>Ⓐ</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>大学全体</p> <p>○チューター制やオフィスアワー制度の採用、各学部男女1名の相談担当教員の配置等を通して、悩みや不満等の早期発見に努めている。</p> <p>○専門的な治療が必要な学生については、専門医や専門相談員による予約相談を行っている。</p> <p>○ハラスメントについては、委員会の設置や規程、ガイドライン等の整備により、発生の防止や相談し易い環境作りに努めている。</p>	<p>○近年、心身に悩みを抱える学生が増えているので、すべての教職員がとにかかく丁寧な対応を心掛けていく必要がある。</p>
<p>(4) 学生の進路支援は適切に行われているか。</p>	<p>○進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施</p> <p>○キャリア支援に関する</p>	<p>S</p> <p>Ⓐ</p> <p>B</p>	<p>大学全体</p> <p>○年度当初に進路指導に関するガイダンスを実施し、年間の支援計画の周知を図っている。</p>	<p>○就職活動中に悩みが膨らみ、就職課や教員と連絡が取れなくなる学生もいるので、粘り強く連絡を取り続けるようにしており、今後も丁寧</p>

	組織体制の整備	C	<p>○就職セミナーや各種講座などの就職支援行事を計画的に行っている。また、就職や進学等に係る個別面談や個別指導を計画的に行っている。</p> <p>○各学部学生委員と就職課職員で構成する合同就職委員会で就職支援対策を協議している。</p> <p>○インターンシップやヒロガク教養講話等で、地域企業や地域住民との連携を深め、進路意識の高揚を図っている。</p>	<p>に対応していく必要がある。</p> <p>○臨地実習の経験、保護者の意向、出生地などを考慮し、主体的に進路決定ができるよう指導しており、今後とも学生のきめ細かなサポートに努める必要がある。</p>
--	---------	---	--	---

7 教育研究環境

点検・評価項目	評価の視点	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
(1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。	<p>○学生の学習および教員による教育研究環境整備に関する方針の明確化</p> <p>○校地・校舎・施設・設備に係る大学の計画</p>	S A B C	<p>大学全体</p> <p>○学習や研究に関する環境整備の方針を明確にし、ニーズの高いものから順次計画的に対応するようにしている。</p> <p>○教員の資質向上や研究活動の充実のために、個人研究費の確保に努めている。また、研究や学習活動がより活発に行われるよう、科研費等の競争的資金の獲得を奨励している。</p> <p>○弘前学院新校舎建設計画委員会の下に設置された大学新校舎建設計画小委員会が取りまとめた意見・構想案について検討している。</p> <p>○自動車や自転車での通勤・通学ができるよう駐車場と駐輪場を完備している。</p>	<p>○学習成果や研究成果を学会誌、学部紀要、ホームページ等に掲載し、本学の教育研究の周知に努める。</p> <p>○校地・校舎・施設・設備に係る大学の将来像をともに考える必要がある。</p> <p>○科研費獲得の推進や個人研究費を活用した研究の更なる充実に努める。</p> <p>○駐車場が満車状態なので、希望者が全員駐車できるようなスペースを確保したい。</p>
(2) 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。	<p>○校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの形成</p> <p>○校地・校舎・施設・設備の維持・管理、安全・衛生の確保</p>	S A B C	<p>大学全体</p> <p>○校地内には樹木が多く、校舎等の建造物と良く調和し、アメニティの感じられる落ち着いた環境が保たれている。</p> <p>○校地内に国指定重要文化財である外人宣教師館があるので、校地・校舎の整備・清掃を定期的実施し、校地内の環境を常にきれいに保つようにしている。</p> <p>○施設設備の保守点検を計画的に実施し、優先順位に基づいて計画的に整備している。また、老朽化等による突発的な修理修繕に対応するため、年内を目途に予算執行の留保等を行っている。</p> <p>○衛生管理委員会を月1回開催し、衛生や安全に関する点検・管理を行っている。</p>	<p>○バリアフリーや冷房等については、安全性や必要性などを十分に検討し、将来計画全体の中で考える必要がある。</p>
(3) 図書館、学術情報サービスは十分に	<p>○図書、学術雑誌、電子情報等の整備状況とその適切性</p>	S	<p>大学全体</p> <p>○老朽化やスペース不足、蔵書不足等の問題はありますが、司</p>	<p>○学生の利用を促進するための方策を考える必要がある。</p>

機能しているか。	<p>○図書館の規模、司書の資格等の専門能力を有する職員の配置、開館時間・閲覧室・情報検索設備などの利用環境</p> <p>○国内外の教育研究機関との学術情報相互提供システムの整備</p>	<p>Ⓐ B C</p>	<p>書の配置、閉館時間の延長、開館日数の確保、検索システムの整備などの最低限のサービス確保に努めている。</p> <p>○県内大学間の相互貸借サービスや横断検索、リポジトリの利用、学術ネットの利用など、電子化の促進による機能強化に努めている。</p> <p>○図書、学術雑誌等で研究や講義で使用するものは学部や学科のニーズを踏まえて整備している。</p> <p>○図書、学術雑誌等で研究や講義で使用するものはほぼ完備している。</p> <p>○図書館の利用については、入学時のガイダンスや基礎演習等で説明している。</p> <p>○図書館ネットワークに関しては、利用者用端末として、OPAC用3台、Web用3台を設置している。図書館LANを通じて本学OPACにアクセスできるほか、学内LANを経由して他大学等のOPAC、国立情報学研究所のCiniiおよび有料（医中誌Web版、メディカルオンライン、最新看護索引web）の外部データベースを利用することが可能となっている。</p>	<p>○メインサーバーのリースが今年度で終了するので、メンテナンスの面を考慮し、次年度からのクラウド化を検討している。</p> <p>○文学部では、学部独自の費用で「学生パソコン室」を仮設し、データベースへの接続環境を構築しているが、利活用の状況によっては「学生パソコン室」の常設を目指したい。</p>
<p>(4) 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。</p>	<p>○教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備</p> <p>○ティーチング・アシスタント(TA)・リサーチ・アシスタント(RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備</p> <p>○教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保</p>	<p>S Ⓐ B C</p>	<p>大学全体</p> <p>○教育課程の特徴に応じた施設・設備、文献等を整備して研究環境を整えている。</p> <p>○講義室でパソコンやプロジェクターが手軽に利用できるよう改善に努めている。大きい講義室には、プロジェクター、Wi-Fi設備、スクリーン、暗幕等を設置し、ネットやアプリケーションを利用した授業が手軽にできる教育環境を整えている。</p> <p>○実習科目の複数指導が可能になるよう助手や非常勤教員の適正な配置に努めている。</p> <p>○研究費や研究室、研究時間等を十分に確保するよう努めている。また、教員の資質能力を高めるために、科学研究費補助金の獲得に積極的に挑戦するよう奨励している。</p>	<p>○IT関連機器や施設・設備の整備の指針とするため、有効に活用されているか利用状況をチェックする必要がある。</p> <p>○個人研究費の用途について、年度末に予算消化ともとれる支出が見受けられるため、適正かつ計画的に使用されているかをチェックする必要がある。</p>
<p>(5) 研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。</p>	<p>○研究倫理に関する学内規程の整備状況</p> <p>○研究倫理に関する学内審査機関の設置・運営の適切性</p>	<p>S Ⓐ B C</p>	<p>大学全体</p> <p>○弘前学院大学倫理規程及び弘前学院大学倫理審査委員会規程において必要な事項を定めている。</p> <p>○上記規程に基づいて、弘前学院大学倫理審査委員会を設置し、審査会を適切に開催運営している。</p>	<p>○研究倫理に関する学内審査が常に厳正に行われるよう留意する</p>

			○研究者は審査委員会の承認を得た後、定められた倫理規程を遵守して研究を進めている。	
--	--	--	---	--

8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目	評価の視点	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
(1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか。	○産・学・官等との連携の方針の明示 ○地域社会・国際社会への協力的方針の明示	S A Ⓑ C	大学全体 ○連携・協力に関する指針は特に定めていないが、地域や関係機関等への講座の開放や施設設備の公開・貸出、審議会等の委員就任、研修会への講師派遣などを通して、積極的に連携・協力を推進している。 ○社会福祉教育研究所では社会福祉調査研究部門・福祉啓蒙部門、社会福祉実践支援部門、市民福祉相談部門を設置し、いずれも地域社会との連携を推進している。 ○福祉施設や住民福祉団体からのボランティア募集の依頼が多くあり同研究所が窓口となり学生のボランティア活動を支援している。	○関係各部署で適宜対応している状況なので、大学としての連携・協力に関する方針や担当窓口等の明確化を図る必要がある。 ○社会福祉教育研究所の活動内容や学生のボランティアについては、ホームページなどで情報を発信するなど、広報の充実を図る必要がある。
(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。	○教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動 ○学外組織との連携協力による教育研究の推進 ○地域交流・国際交流事業への積極的参加	S Ⓐ B C	大学全体 ○文学部では地域文化総合研究所や英語英米文学会、国語国文学会等の活動や研究を地域へ開放している。 ○社会福祉学部では社会福祉教育研究所を設置し、福祉施設や福祉団体での実習やボランティア、地域創造フォーラムの開催等を通して地域社会との連携を深めている。また、地域で行われる夏祭りやイベントへ積極的に参加し、地域貢献に努めている。 ○看護学部では、リカレント教育や母親教室等を毎年開催し、地域の医療向上に寄与している。また、学生の臨地実習指導を介して、地域医療施設との連携を深めるとともに、保健科学研究発表会を介して、地域の医療・健康に関わる大学などとの連携を深めている。 ○各学部の地域に向けた取組や研究紀要の発行、講座や施設・設備の開放等を通して社会への還元を努めている。 ○「学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム」や「ひろさき産官学連携フォーラム医工連携研究会」、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」等の地域連携組織に参加している。 ○各学部では研究紀要等を通して教員の研究成果を社会	○学外に向けた取組の中でも、特に小・中・高等学校を対象とした取組の改善・強化を図る必要がある。 ○地域の課題を地域住民や関係機関と連携して、課題解決型の共同研究を積極的に推奨する必要がある。 ○弘前市、大鰐線存続協議会、本学院が協定を結んだ大鰐線活性化事業への取組を高校、大学が一体となり、自治体や地域を巻き込んで行うなど、地域貢献活動の充実を努める必要がある。 ○ゼミナールの授業の一環として、地域のニーズに即した社会貢献性を帯びた研究活動を推進する必要がある。

			へ積極的に公開している。また、学生の学習成果については、報告書や卒業研究、卒業論文等を通して公表に努めている。科学研究費助成事業については、研究成果報告書を通してその成果を公表している。	
--	--	--	---	--

9 管理運営財務

管理運営

点検・評価項目	評価の視点	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
(1) 大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。	<ul style="list-style-type: none"> ○中・長期的な管理運営方針の策定と大学構成員への周知 ○意思決定プロセスの明確化 ○教学組織(大学)と法人組織(理事会等)の権限と責任の明確化 ○教授会の権限と責任の明確化 	S Ⓐ B C	<p>大学全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ○理事会や評議員会で、本部が作成した中・長期も含む事業計画書が示され、年度末には事業報告書が提出される。また、事業報告書については、ホームページで公開している。 ○学校教育法や同施行規則の改正を受け、内部規則の総点検・見直しを実施し、学長の権限、教授会の位置づけ、意思決定手続き等の明確化を図っている。 ○平成17年度の「弘前学院経営の理念と方針」で示された経営目標、「教育研究の質の向上」、「学生に明確な付加価値を付ける」、「時代の変化に対応した大学改革を推進する」、「就職対策の研究と強化」の4つの観点に、喫緊の課題である「学生生徒の定員確保」を加えた5つの観点から、140周年を見据えた中長期目標実施計画を作成する予定である。今年度は、緊急度の高い「学生生徒の定員確保」に関する事項を取りまとめた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○次年度からは、今年度取りまとめた取組内容の有効性等について検証しながら、具体的で適切な中長期目標実施計画の作成を進める予定である。
(2) 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> ○関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備とその適切な運用 ○学長、学部長・研究科長および理事(学務担当)等の権限と責任の明確化 ○学長選考および学部長・研究科長等の選考方法の適切性 	S Ⓐ B C	<p>大学全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学内諸規程は整備されており、規程の適正な運用に心掛けている。 ○今回の内部規程の改正に伴って、学長および学部長、研究科長等の権限と責任がより明確になった。また、選考については、組織運営規定に基づいて適切に行っている。 ○校地・校舎・施設・設備の維持・管理、安全・衛生の確保等については、教育環境として不都合が生じた場合は早急に対応している。 	
(3) 大学業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能	<ul style="list-style-type: none"> ○事務組織の構成と人員配置の適切性 ○事務機能の改善・業務内 	S A	<p>大学全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ○弘前学院大学組織運営規程に基づいて、効率的で適正な人員配置を行うよう努めている。また、職員の人数につい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ビルドは増えるが、スクラップが思うように進まないため、思い切った削減策を検討する必要がある。

しているか。	容の多様化への対応策 ○職員の採用・昇格等に関する諸規程の整備とその適切な運用	Ⓔ C	ては、大学設置基準で示されている教員定数の50%以上を最低ラインとし、下回らないようその確保に努めている。 ○大学を取り巻く状況の変化に伴って、業務量の増加や多様化が進み、スクラップ・アンド・ビルドによる業務量の適正化に努めている。	○次年度のSD研修のメインテーマに設定し、業務量削減の推進を図る。
(4) 事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	○人事考課に基づく適正な業務評価と処遇改善 ○スタッフ・ディベロップメント(SD)の実施状況と有効性	S Ⓐ B C	大学全体 ○業務評価に対する意識付けを図るため、県教委で実施している教職員の人材育成・評価制度に関する研修を行った。 ○週1回の職員朝会でのスピーチ、新規採用者研修、年1回の全体研修会、年1回の東北事務研修会を通して、事務職員の資質能力向上に努めている。 ○今年度4月には、クルート進学総研所長を講師に招いて「弘前学院大学学内改革研修会」が開催され、事務職員も「少子化時代を見据えた学内改革をどのように進めて行けば良いのか」について学んだ。	

財務

点検・評価項目	評価の視点	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
(1) 教育研究を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	○中・長期的な財政計画の立案 ○科学研究費補助金、受託研究費等の外部資金の受け入れ状況 ○事業活動収支計算書関係比率および貸借対照表関係比率の適切性	S Ⓐ B C	大学全体 ○弘前学院創立130周年記念4ヶ年計画(平成25～28年度)に基づき、主に記念事業の策定、人件費および経費削減を実施している。 ○外部資金をより多く獲得するため、科学研究費助成事業への申請を常に呼びかけている。 ○毎年度、法人全体の事業活動収支差額比率2%以上を目標としており、昨年度の2.3%に続いて、今年度も3.7%と2年連続で目標を達成している。	○中・長期的な財政計画の立案に関して、18歳人口の漸減、地域社会の状況などを多面的に予測する必要がある。 ○法人全体の財務関係比率に関して財政構造の改革を検討する。
(2) 予算編成および予算執行は適切に行っているか。	○予算編成の適切性と執行ルールの明確性、決算の内部監査 ○予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みの確立	S Ⓐ B C	大学全体 ○予算編成および執行については、経理規程等及び学内の経費支出ルールに沿って適正に処理している。 ○決算の内部監査体制は導入されていない。決算に係るものは法人本部にて入念にチェックしている。 ○予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みは確立されていないが、その都度報告がなされている。	○重要度・緊急性を精査した上で、不要不急の支出抑制により更なる経費節減を図り、適正かつ効果的な予算執行に努める。 ○内部監査体制について、県内、近県等の他法人の体制状況を把握し検討する。 ○効果の分析・検証は、その重要性から、各部門、部所毎に仕組みを検討する。

10 内部質保証

点検・評価項目	評価の視点	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	○自己点検・評価の実施と結果の公表 ○情報公開の内容・方法の適切性、情報公開請求への対応	S Ⓐ B C	大学全体 ○自己点検・自己評価委員会において、新しい認証評価に適合した点検評価項目からなる「自己点検・自己評価表」を作成し、部科課レベルで点検評価を実施し、ホームページに掲載している。 ○学校教育法施行規則の改正を受け、毎年ホームページ等で開示が必要な項目についての情報を公開している。	
(2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか。	○内部質保証の方針と手続きの明確化 ○内部質保証を掌る組織の整備 ○自己点検・評価を改革・改善に繋げるシステムの確立 ○構成員のコンプライアンス（法令・モラルの遵守）意識の徹底	S A Ⓑ C	大学全体 ○自己点検・自己評価委員の意見を収集し、その内容を学科会にて検討・評価している。 ○各部科課及び事務局でまとめた自己点検評価表を参考に、大学としての自己点検・自己評価一覧表を作成している。 ○文科省の私立大学等改革総合支援事業「タイプ1」の評価項目と関連付けて、点検評価を行うようにしている。 ○今年度から新たに、PDCAサイクルの確立を図るため、次年度に向けた課題改善計画一覧表の作成を要請したので、これも合わせてホームページで公表する。 ○常にコンプライアンス（法令・モラルの遵守）意識を持って行動するよう努めている。 ○文学部および社会福祉学部においては、学生や保護者、地域のニーズ、文科省等の教育の動向等を考慮して教育課程の見直しを行っている。	○構成員のコンプライアンス（法令・モラルの遵守）意識の徹底に向けた取り組みが継続的に必要である。 ○点検評価表とは別に課題改善計画一覧表を作成したので、次年度の取組の見直し改善に繋がるよう有効な活用を考える。
(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか。	○組織レベル・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 ○教育研究活動のデータ・ベース化の推進 ○学外者の意見の反映 ○文部科学省および認証評価機関等からの指摘事項への対応	S A Ⓑ C	大学全体 ○会議等を通して部科課レベルで自己点検・自己評価表を作成しており、個人の意見は間接的な反映に止まっている。 ○職場のペーパーレス化に伴って、報告書や紀要等の教育研究活動の電子化を進めている。研究紀要については、大学コンソーシアム学都ひろさきで運営する6大学共同リポジトリに登録している。 ○社会福祉や看護の実習においては、施設実習指導者と教員とで、実習指導のあり方について意見を交換しており、	○個人レベルでの自己点検・評価の実施についても検討する。 ○学外者の意見の反映については、臨地実習施設等の関係者との意見交換に頼っているので、第3者委員会等の設置を考える必要がある。

		<p>指導の充実・改善に活かしている。</p> <p>○自己点検・自己評価委員会を中心に、部科課委員会で適切に分担し、文科省や評価機関等の指摘事項や動向に対応している。</p> <p>○本学の自己点検・自己評価表は、大学基準協会の項目に沿っているので、各年度ごとの評価に基づいて認証評価報告書を作成するようにしている。</p>	
--	--	---	--

評価基準	<p>S：方針に基づいた活動が行われ、理念・目的・教育目標の達成度が極めて高い。</p> <p>A：概ね方針に基づいた活動が行われ、理念・目的・教育目標がほぼ達成されている。</p> <p>B：方針に基づいた活動や理念・目的・教育目標の達成がやや不十分である。</p> <p>C：方針に基づいた活動や理念・目的・教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。</p>
------	---